

がん対策推進企業アクション 女性のがん対策活動 “Working RIBBON (W RIBBON)”



「乳がん・子宮頸がん検診80%チャレンジ」スタート企画 Working RIBBONオフィシャルサポーターによる 優良企業インタビュー Vol. 1

東京材料株式会社（東京都千代田区）

『新入社員から“女性のがん”研修。 自ら進んで検診を受ける風土づくりに成功』

■ 事業内容

ゴム・化学品関連の専門商社

■ 企業概要

東京都千代田区丸の内一丁目6番2号
新丸の内センタービル

平均年齢40歳

女性社員54名（全社員のうち30%）

乳がん検診受診率91%、

子宮頸がん検診受診率83%（令和3年度）



コーポレートサイト
(<http://www.tokyoairyo.co.jp/>)



■がん対策推進担当者

人事総務部 次長 平根佐知子様
人事総務部 杉山範子様

■インタビューー

大同生命保険 取締役常務執行役員
谷口典江様
(がん対策推進企業アクション
Working RIBBONオフィシャルサポーター)



写真左から谷口様、平根様、杉山様

■取り組みインタビュー

オフィシャルサポーター谷口様
(以下谷口様) :

御社は、がん対策推進企業アクションの
Working RIBBONが行う「乳がん・子宮
頸がん検診 80%チャレンジ」を既に達
成されていますが、どのような取り組み
を行っているのでしょうか？



東京材料 平根様 (以下平根様) :

当社では、新入社員向けの研修のなかに、健康診断の重要性を説明するカリキュラムを加えています。特に、がん検診、中でも特に婦人科健診については、受診に抵抗がある若い社員も多いため、「なぜ検診が必要か」「働くことと検診はどのような関係があるのか」「検査は具体的にどのように行つか」等を看護師と人事が分担して説明しています。

新卒で入社したばかりの社員にがん検診の研修をするのは、少し珍しいかもしれませんが。男性社員にも婦人科検診のことは話をしています。「自分の身近な女性に健康でいてほしいですよ」と。

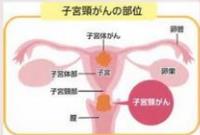
日本はがんの罹患者が増えていますが、怖がらせるのではなく、情報を正しく伝えることが大事だと思っています。もともと最近の若い社員は健康意識が高いように感じています。その為、新入社員の時点で研修をすることは効果が高いのではないのでしょうか。

谷口様 :

新入社員からですか。御社では、入社した瞬間からがん対策が始まっているのですね。現在のような積極的な対策は、いつから行われているのですか？

子宮がん検診について

- 子宮がんには、子宮の入り口付近にできる子宮頸がんと子宮内にできる子宮体がんがあり、このふたつは異なる性質を持っています。*会社で案内している検診は頸がんのみです
- 子宮頸がんは、子宮がん全体の80~90%を占めており、最近特に若年化が目立ち、20~30歳代で発生するケースが増えてきています。
- 子宮体がんは、閉経後の50~60歳代の人に多くみられ、子宮がん全体に占める割合が年々増えてきています。



あなたの私のために

乳がん・子宮がん検診
を受けましょう

2015年10月21日

▲研修資料の一部



平根様：

2009年に乳がん検診、子宮頸がん検診を始めています。それまでは35歳以上の成人健診対象者のうち、一部が受診していました。受診率は50%程度だったと記憶しています。また、成人検診の乳がん検査にはマンモグラフィーは含まれていませんでした。

当社は女性社員の割合が多いにもかかわらず、35歳以下の社員に婦人科検診の案内が来ておらず、私自身も年齢的に乳がんや子宮がんをはじめとする女性の病気に不安を感じ始めたころ、他の女性社員も同じような不安を抱えていることがわかりました。そこでまず、会社でどの程度のがん対策が出来るのか調べることにしました。

その後、親会社の健康管理室に常勤している看護師の方にアドバイスを乞い、親会社で実施している検診を参考にしながら、マンモグラフィーを含む婦人科検診費用の会社全額負担や、検診を会社のすぐ近くで受けられるようにするなど、環境整備を進めました。そして、出来るだけ多くの社員に受けもらえるように、後輩はもちろん、先輩にも声をかけて連携を取るようになりました。任意であるものの「検診を受けることは当たり前」という文化にしていきたいとの思いで活動しています。

谷口様：

2009年からというところ、一般的に健康経営が叫ばれるよりも、かなり前ですね。たしかに、受診する社員から見ると、受診の手間や、金銭的な負担に関することは非常に重要ですね。「受けることが当たり前という文化」というのも素晴らしいですね。他にも、何か工夫されていることはありますか？

平根様：

全ての社員が検診を受診できるように、様々な取り組みを行っています。

- ①産業医による健康管理研修を始めました。不定期ではありますが、検診の重要性を理解してもらうことを目的としています。
- ②検診場所を会社から近いクリニックにすることはもちろんですが、女性がん検診については、すべて女医さんや女性スタッフに対応していただけるようお願いしています。また、社員にも女医さんが対応してくれる旨を伝えていきます。
- ③検診日の予約は、1月～3月という枠のなかで個人の都合に合わせて希望日を提出してもらい、あとは会社から一括でクリニックに予約申込をしています。検診の時間は業務が比較的落ち着いた午後の時間帯に実施し、フレックスを利用すれば検診後にそのまま帰宅することも可となっているので受けやすい体制になっています。

谷口様：

出来るだけ不安や懸念がない状態で受診できる仕組みを整えているのですね。もしがんが見つかったときの不安についても、何か配慮されていることはありますか？

平根様：

検診の結果についてのフォローは、個人情報保護の観点から現在は会社としては特に行っておりませんが、産業医または看護師に適切な対応をしていただけるようにしています。女性社員が54名ですから、まだ全員の顔と名前が把握できる規模です。日頃から私自身が社員に対して「何かあったら気軽に相談をしてね」というように周知しています。実際に検査結果に関して相談があり、その後回復して仕事に復帰している方もいます。

特に20代の社員は検査に不安を持つ方もいるのですが、先輩社員が相談に乗ることもあるようです。

谷口様：

安心感のある体制づくりができていることに好印象を受けました。様々な取り組みを推進されていますが、ここまで至るのにはご苦労もあったのでは？

平根様：

取り組みを進めるなかで、大きな障害と感じたものはありません。検診費用に関しては、会社に必要性を説明し、経営陣には快諾してもらうことができました。

ただ、現時点では検診の受診は任意ですから、受診を希望しない人に強制はできません。受診しない方には可能な限り1度だけ理由を聞いてみて、アドバイスが出来ることがあれば話をしますが、決して無理強いはしません。自ら受けたいと思ってもらうことがベストだと考えています。

谷口様：

経営側の姿勢も素晴らしいですね。一方で、社員の皆様の反応はどうでしょうか？

平根様：

これまで婦人科検診を受けたことがなかった社員も受診するようになりました。また、日頃から気になる症状があった時に、迷わずに婦人科を受診することが出来るようになったようです。

ある社員から「検診を受ける前は憂鬱だったけれど、結果に異常がなければ安心が出来るし、異常があっても早めに治療できるので良かった」という声を聞くことができました。



谷口様：

順調に対策が進んでいるようですが、今後に向けて平根様が課題に感じていることはありますか？

平根様：

受診率100%を目指すうえで、課題が4つあります。

- ①受診を促進することは出来ますが、強制は出来ないため、受ける人はいつも受けるが受けない人は受けない、という個人差が出ています。
- ②がんが発見された従業員について、本人の希望を重視して臨機応変に対応していますが、まだ治療と仕事の両立支援のフローが確立しているとは言えない状態です。
- ③会社から社員への情報提供について、入社タイミング等によって情報量に違いが出ていますので、定期的に情報提供する仕組みを作る必要があると感じています。
- ④新型コロナウイルスの影響もありますが、一昨年からは積極的に受診勧奨が来ていませんでした。在宅勤務になったことで、検診のためにわざわざ出社することをためらってしまった社員もいたようです。今後は積極的に勧奨を再開していきたいと思います。

本来は、社員全員とその家族が、がん検診を自ら積極的に受診するようになることが理想だと思っています。



谷口様：

御社のように積極的ながん対策を進める企業でも、やはりコロナによる影響はあるのですね。リモートワークの時代になって、会社と社員のコミュニケーションという点でも、どうしても少し堅苦しくなってしまう懸念はありますね。

平根様：

現在、このオンライン時代にあわせて、『女性特有の病気の基礎知識』を自宅でも学ぶことが出来るeラーニングの案内の準備を進めています。こちらは親会社である日本ゼオンが作成したもので、とても参考になる内容となっています。

谷口様：

がん対策推進企業アクションにも、パートナー企業であれば無料で何人でも受講できるeラーニングがありますが、集合型の研修を実施しにくい環境ですから、とても良い取り組みですね。

eラーニングを監修されている東大病院の中川恵一先生が仰る「がんは、ほんの少しの知識で運命が変わる病気」とは、まさにその通りだと思います。

是非、御社の様々な取り組みを、これから「80%チャレンジ」に参加される企業様や、日本中の企業に知って頂きたいと思います。本日は有難うございました。



■がん対策推進企業アクションについて

ホームページ：<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/>

新規パートナー申請：<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/about/registration.html>

Working RIBBON：<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/workingribbon/index.html>

パートナー企業専用eラーニング：<https://www.gankenshin50.mhlw.go.jp/elearning/index.html>